

次期大統領は果して誰？

二大政黨の冷戦激化

ヴァルガス氏の立候補が注視的

まだ使用が少い
國産エンシヤーダ

來年十月施行される大統領選舉を前にして、各政黨は必死の工作に夜も日もない様である。社民、合衆民主、共和の各派は最初連合して共産候補と立てようとしたのであるが、一進一退、立ち僵じればあちらが立たず。現在では協定不可能で、現状では二大政黨民、合同民主間に冷戦が展開されつつある。

果して各政黨の立候補は誰れであろう。ゾトラ大統領を支持して優勝した社民黨では現副大統領レウ・ラモス氏（サンタ・カタリナ州）を推してゐるが現陸相カルロス・ゴメス將軍の名も出でるが、さてどうなるか

前回エドワルド・ゴメス將軍を推して合同民主黨では今回はマヌス州統領マルトン・カムボニ氏を擁立する

云はれてゐる。

これには同黨總裁ブラド・

カリ・氏や、バイオ州統領

のオタヴィオ・マンガニイ

ラが頑張つてゐるし、ミン

ス社民の一部ではモルトン

氏を擁護するものもあると

思はれる。同じ社民黨でも

ミナス州には統領にし

て現上院議員カネヂクト

バラダレスと云う大惑星が

いる。これは保守的統領

でも謂うか、とにかく

ラダレス派と、これに反対

する一派に別れてゐるから

種々に仲間割れも時々出て

来るのだ。

その他何と云つても人氣

の焦点は例の南太河州の老

練ヴァルガス氏であるが、

そして樹じると云つてゐる。

果して立候補するであらう

かは現在疑問である。

マヌス、南太河、北伯、聖

州と伯蘭改界の渦は大きく

卷いて流れる。この激化す

る「冷戦」の底味より如何

見る候補者が底味の差異

かは現在疑問である。

